

エチオピア
「みんなの学校」
インタビューレポート

2008年10月

報告者：星野貴子

アフリカ理解プロジェクト

<http://africa-rikai.net>

AFRICA RIKAI PROJECT

みんなの学校・インタビューレポート

報告者：星野貴子（アフリカ理解プロジェクト）

アフリカ理解プロジェクトの活動に携わるようになって2年半。ようやく9日間の休暇が取得でき、念願のみんなの学校訪問を果たしてきました。羽田（東京）～関西（大阪）～ドバイ（UAE）～ボレ（エチオピア）のフライトは、ドバイで朝を迎え、その後、イエメン、ジブチを越えてエチオピアへ。その道中-飛行機からの眺めは、まるで立体地図のようでした。「今日は天気がよくて、景色が良く見えてよかったなあ」と思いましたが、よく考えたらこのルート的气候はいつも晴れ・・・？

さて、エチオピア到着3日目に、満を持してみんなの学校のあるメタハラ（ファンターレ）へ向かいました。現在、オロミア州ファンターレ郡には14の小学校と2つの中学校があり、1つは砂糖生産工場内にある総合中学校、もう1つが「みんなの学校」プロジェクトの学校（Dandi Gudina General High School）です。この中学校には、政府ではなく現地パートナーNGOであるGTF*3がその建設を支援し設立されたという歴史がありますが、その後徐々に政府に引き継がれてゆき、現在は総合中学校と同様、政府管理下の学校になっています。これまでこの中学校に対しては、GTF・学校・アフリカ理解プロジェクトが共同で、教室などのハードの充実、日本からの教師派遣などを行い、同中学校の女子学生に奨学金も付与しています。

今回は、この中学校の生徒でアフリカ理解プロジェクトの奨学生2名 GTF 奨学生1名（ともに女子）に彼女たちの日常生活や将来の夢などを聞いてみました。

Opening（GTF スタッフ）（アフリカ理解の説明と今日のインタビューの目的の説明）

Q1（星野）（自己紹介の後、）今日は、日本の子どもたちが一番関心をもっているみなさんの普段の生活についてお聞きしたいと思ってやってきました。まず皆さんの学年と家族について教えてくださいませんか。

A1-a（タエイボ・ファンターレさん）私は今、第10学年*2で、兄弟は男が6人、女が3人います。

A1-b (ガレ・ロバさん) 私も今、第 10 学年で、兄弟は男が 5 人、女が 4 人います。

A1-c (サリマロ・ファンターレさん) 私は今、第 10 学年で、兄弟は男が 4 人、女が 3 人います。

+聞き取り調査の対象となったタエイボさん、ガレさんの詳細プロフィール
<http://africa-rikai.net/projects/studentsupport.html>

Q2(星野)次にみなさんの生活についてお聞きしたいと思います。私は日本では普段会社員として働いていますので、会社のある日は大体いつも朝 7 時ごろに起き、朝食を作って・食べてから、10 時頃に会社に着き、18 時ごろ仕事が終わったら家に帰って夕食を作り、それを食べた後、風呂に入ったりして、24 時ごろ寝るような生活をしています。

みなさんの生活はいかがですか。学校がある日の 1 日について教えてください。

1 日の生活(タエイボさん)		1 日の生活(ガレさん)	
6 時	起床	5 時	起床
	掃除・着替え		掃除・着替え
	乳搾り		乳搾り
	朝食		食事の世話/朝食
	登校		登校
15 時	下校	15 時	下校
	水汲み・薪集め		水汲み・薪集め
	夕食の準備		夕食の準備
	乳搾り		乳搾り
	夕食		食事の世話/夕食
22 時	就寝	22 時	就寝
3-5 時	勉強	未明	(家族が寝てから)勉強

A2-a(タエイボ・ファンターレさん)私の 1 日は 6 時に始まり

(中略:詳細は表を参照)22 時ごろに終わります。

家族が皆一緒に寝ているので、夜はいったん皆と一緒に寝て、皆が寝静まった頃に起き出して勉強しています。

A2-b (ガレ・ロバさん)私もタエイボさんと大体同じような

生活をしています。朝がタエイボさんより少し早いのは、兄弟が小さくて手がかかるためです。

1 日の生活(サリマロさん)	
	* 寮生活
5 時	起床
	朝食準備/朝食
	登校
	昼食に戻る
15 時	下校
	図書館
17 時	夕食準備/夕食
20 時	勉強
24 時	就寝

A2-c (サリマロ・ファンターレさん) 私は今、寮にはいつているため、(前述の)2人とは異なった生活をしています。寮は基本的に自炊なので、朝・昼・晩と食事は全て自分で作って食べています。お昼は、寮が学校に近いので、一旦寮に戻ります。(通学生には、国連食料計画<WFP>による給食支援あり。)学校が終わった後は、図書館で勉強し、図書館が閉まった後は、寮に戻って夕食の後は寝るまで勉強ができます。

Q3(星野) 今度は、みなさんの好きな科目^{*1}について教えてください。

A3-a.(タエイボ・ファンターレさん) 私は、生物、化学が好きです。

A3-b (ガレ・ロバさん) 私は地理と歴史が好きです。

A3-c (サリマロ・ファンターレさん) 私は、英語と化学です。

Q4(星野) (一同: 将来が楽しみです。)ところで、みなさんはどうして学校に通うようになったのでしょうか。また、将来の夢は何でしょうか。

A4-a.(タエイボ・ファンターレさん) 私は、他の人がサポートできるようになりたくて、学校に来ています。将来は医者になり、ここの人々を助けたいと思います。

A4-b (ガレ・ロバさん) 学校には、親の薦めで来ることになりました。将来の夢は持っていますが、今は内緒にしておきたいと思います。

A3-c (サリマロ・ファンターレさん) 私は、勉強を通して生活を変えてゆきたいと思って学校に来ています。近い将来の夢は上級の学校へ進学することです。

Closing(星野) 今日は(約1時間の)長い時間、ありがとうございました。

インタビューは、GTF スタッフ・日本の関係者など総勢10名の大人対3人の女学生という形になってしまったため、最初はかなり堅い雰囲気と言葉も少なくなりがちでしたが、徐々に空気も和らいできて、結局日没近くまで行われることになりました。当日はこの地域にしては(たとえ雨季でも)珍しく曇り空で、月明かりもない路を帰る年頃のお嬢さんたちがちょっと心配(老婆心?)になりました。

その後、エチオピアからドバイに向かう空港のカウンターには、中東に出稼ぎに向かう女性たちの姿がありました。女性の1人は「主人も中東の別の国で働いているのよ。」と屈託なく語っていましたが、良い教育を受けた人たちが、良い指導者を選ぶようになり、みんなが揃って暮らせるような国になって欲しいものだと切に感じました。

注

*1 中学校で習う教科は、語学(英語、アムハラ語、オロモ語)、社会科学(歴史、地理、公民)自然科学(生物、化学、物理)、数学の10教科。

*2 エチオピアの初等教育は、1-4年(小学校前期)5-8年(小学校後期)9-10年(中学校)に別れており、10学年は16歳相当。ただし、教育開始・継続の実情は、地域によっても大きく異なるため、留意が必要。

*3 グディナ・トゥムサ基金(GTF)

1990年に設立されたエチオピア政府登録NGO。本部はエチオピアの首都アジスアベバにある。GTFの活動は、困難に直面している人々の精神的、物質的ニーズに包括的に取り組むことを目的とし、政府の支援を十分に受けられない状況にいる人々を支援している。

グレートリフトバレーの中に位置するファンターレ郡は、標高千m前後の平坦な地形にあり、現在の人口は、約7万人。政府主導による砂糖生産工場の拡大に伴い、人口は増加。他方、約5万5千人のカリュ遊牧民は、国立自然公園の制定、砂糖生産工場の拡大により、エチオピアの中でも最も条件の悪い乾燥した地域に追いやられている。

GTFはこのような環境下にあるカリュ遊牧民を対象とした農村開発プロジェクトを95年から実施し、政府のNGO関連法令に沿って、省庁や地域住民組織、他のNGO(キリスト教復興開発教会(CRDA)、基礎教育ネットワーク、放牧民フォーラムなど)の関係者との連携をもちながら事業を進めている。

Gudina Tumsa Foundation(www.gtf.org.et/)